

メッセージアウトライン

コロサイ人への手紙2:8～10「キリストのうちにこそ」

[8]「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません」

パウロはコロサイ教会を悩ます異端思想について警戒するように教える。その一つが「むなしい、だましごとの哲学」であった。もちろん彼はここで哲学と名のつくすべてのものを否定しているのではない。

「哲学」…フィロソフィア→フィロス(友、仲間)+ソフィア(知恵) 哲学者とは知恵の探究者、知恵を愛する者という意味になる。哲学とは知恵の探究に関する学問。哲学を軽んじてはならない。しかし、現代に至る哲学の歴史を見ると「この世が自分の知恵によって神を知ることがない」(1コリント1:21)とされていることが事実であることがわかる。大事なものは十字架のことば、福音である。

パウロは今ここで哲学という名を用いる「むなしい、だましごと」を問題にしている。

①「それは人の言い伝えによる」…イエスは、昔の人たちの言い伝えに従って歩んでいるパリサイ人と律法学者たちを責められた。→マルコ7:5~8

②「この世の幼稚な教えによる」…福音の完全な成熟した教えではなく、この世の人間の作りだした諸宗教が説く初歩的で誤った人間的な教えによる。それはキリストによるものではない。

このように、パウロはコロサイ教会を惑わしている異端について、そのような教えは人間的なものであり、キリストによるものではないと論駁する。私たちは教えられたとおり、しっかりとキリストに根ざしていなければならない。

[9]「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています」

同じ意味のことが1:19で言われているが、ここでもう一度強調されている。それはキリストを見上げることの大切さを知らせるためである。なぜなら、キリストを見ることは完全な神を見、そして知ることだからである。

「神の満ち満ちたご性質」ということばは新約聖書中ここだけに出て来ることばで「神の本質」を意味する。

パウロはこのように表現することによって天地万物の主である神の本質そのものが、人となってこの世に来られた御子キリストのうちにあり、宿っている、生きているというのである。そして具体的に私たちは四つの福音書を通してイエス・キリストを知ることができる。キリストのことば、行い、弟子たちや人々に対する態度、そしてさまざまな教えなどを学んでいくときに、彼が愛とあわれみに富まれるお方であり、また聖く義しく、不義や悪を退けられるお方であり、あらゆる権威権力の上に立つお方であり、人の心の思いをこ

存じて天地自然を支配され、さまざまな奇蹟を行われ、恵み深く、彼を信じ従う者にいのちを与えるお方であるということがわかる。もちろん今挙げたことがすべてではない。そしてこれらキリストのうちに見られるものはすなわち神の持つておられる性質であるとパウロは言う。それゆえ聖書を読みイエス・キリストについて知れば知るほど、私たちは真の神を知ることになる。

この世の宗教は奥義や秘儀や悟りといったものを持ち出して、そこに至ろうとする者にさまざまな制限を加える。しかし、誰でもこのお方イエス・キリストのもとに来るならば真の神を知り、救われることができるのである。→ヨハネ 14:6、3:16

[10]「そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」

9節で言われているごとくキリストのうちには神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っているということはキリストを信じる者に豊かな結果をもたらす。それはキリスト者は信仰によってキリストにあるものであり、それゆえに彼の完全な救いにあずかり、彼にあって満ち満ちた者とされているということである。

これがキリストにある信仰者の立場であり身分である。パウロはコロサイ教会を惑わしていた異端のだましごとの考えをバツサリと切り捨て、あなたがたはもう満ち満ちていると教えたのである。キリストはこの世のあらゆる支配と権威のかしらであり、それらに対する絶対的な支配権を持つておられるお方である。この方が私たちの主であるということは何とすばらしいことであるだろうか。

「キリストにうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っている」。私たちは常にこのことを思い、みことばに従い、みことばを実行し、しっかりとキリストにつながり、神のすばらしさをさらに知る者になりたい。